



いま、あたらしいことを。いつか、あたりまえになることへ。

2024年3月期 第1四半期 決算補足説明資料

2023年8月3日

SWCC株式会社

- 1 . 2023年度第 1 四半期決算概要
- 2 . 2023年度通期業績計画
- 3 . Appendix

1. 2023年度第1四半期決算概要

2023年度 第1四半期決算 概況

経営環境

- 新型コロナウイルス感染症に対する行動制限緩和により経済は正常化。
- ロシア・ウクライナ情勢の長期化や円安進行により原材料・エネルギー価格が高騰。
- 自動車関連市場では、半導体不足による自動車減産の影響は回復傾向。
- 電線業界においては、電線全体の需要は微増。
- 銅の国内建値平均価格は、前年同四半期より僅かに低下。

売上高

当期事業計画は全般に下期偏重の計画。1 Q実績は**前年同四半期比減収**。

【主な事業分野別状況】

エネルギー・インフラ…電力工事の下期偏重を堅調な建設関連が補う。

自動車……………xEV向け高機能製品は調整局面が継続するも底打ち。

産業用デバイス…………一部コロナ特需の剥落により需要は低迷。

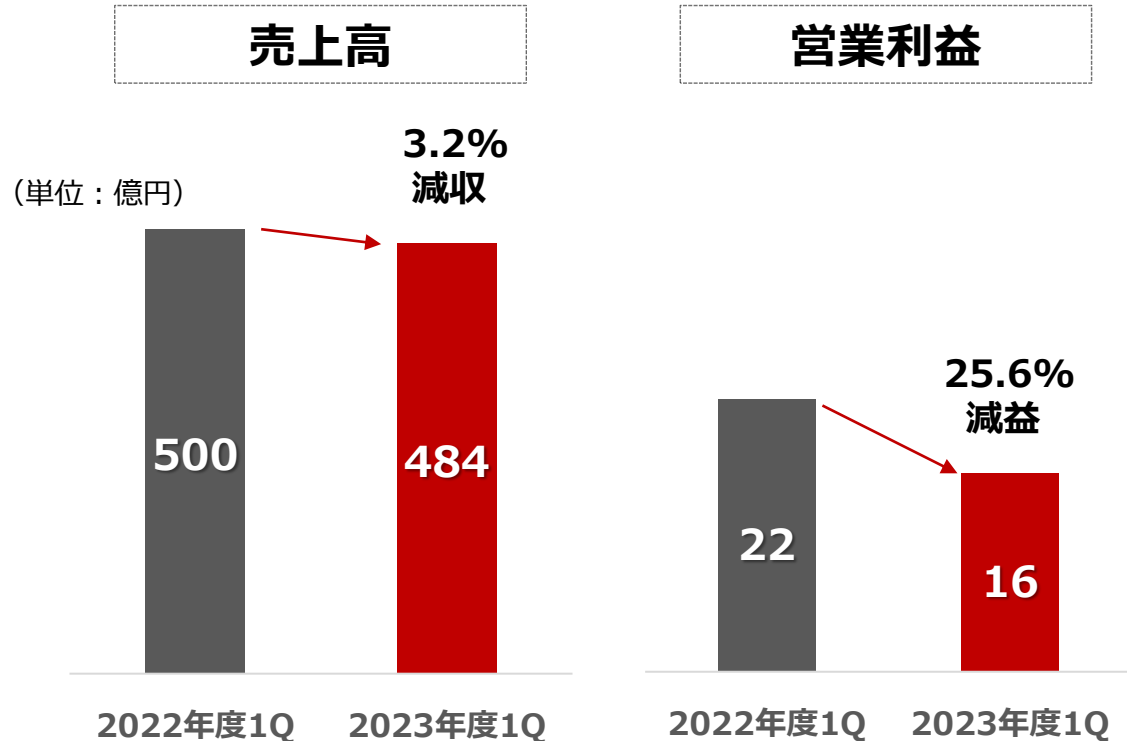
営業利益

電力インフラは期初想定どおり下期偏重で進捗。建設関連・通信ケーブルが下支え。
前年同四半期比減益。

2023年度 第1四半期決算のポイント

1 Q前年同四半期比

当期の事業計画は、下期偏重（上期30%、下期70%程度）を想定。



1 Q進捗率

売上高の進捗率は例年並みも、営業利益については電力工事の下期偏重により、例年を下回る進捗。

(単位：億円)

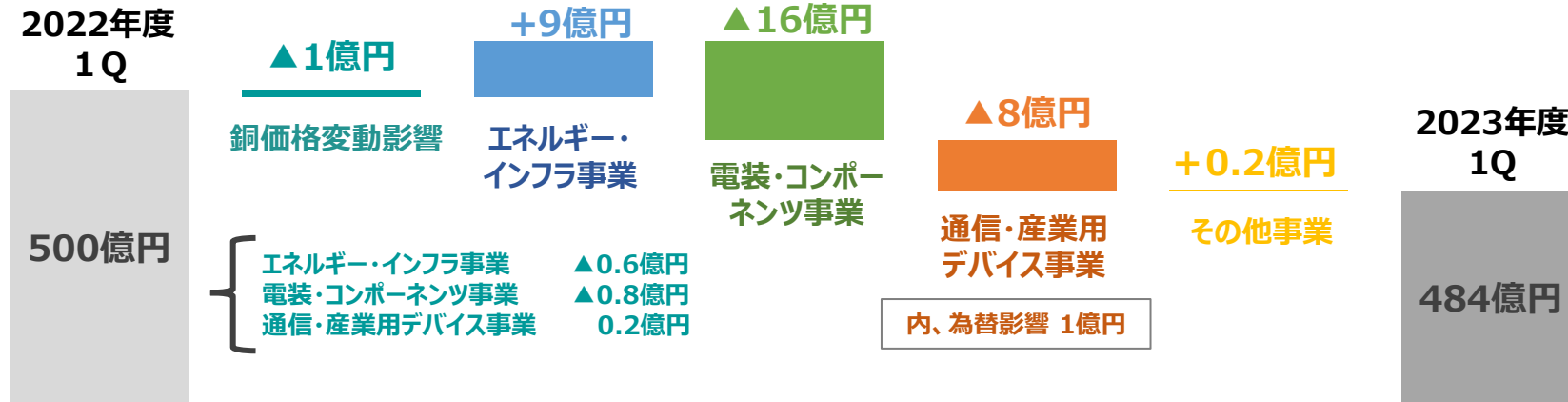
	通期計画	FY19-22 平均進捗率	1Q進捗率
売上高	2,150	23.2%	22.5%
営業利益	107	18.4%	15.0%

2023年度 第1四半期連結業績 P/L

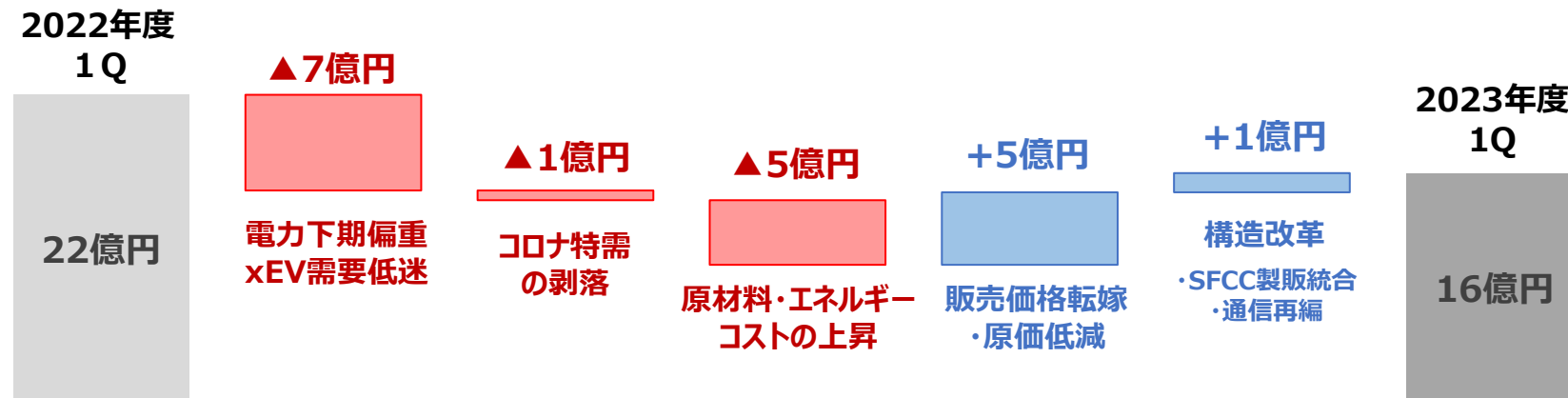
(単位：億円)	2022年度 1Q実績	2023年度 1Q実績	2023年度 通期計画	前年同 四半期比 %	進捗率 %
売上高	500	484	2,150	▲3.2	22.5%
営業利益	22	16	107	▲25.6	15.0%
営業利益率 %	4.3	3.3	5.0	—	—
経常利益	23	16	106	▲30.0	15.1%
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	16	12	70	▲28.0	16.9%

2023年度 第1四半期 増減要因（前年同四半期比）

売上高増減要因



営業利益増減要因



【増減要因】

1. 売上高
期初想定の通り、全般に件名が下期偏重となるなかxEV需要の低迷やコロナ特需の剥落により減収。

2. 営業利益
構造改革ならびに原材料・エネルギーコスト上昇に対する適正価格での販売により収益改善を進めるも、電力工事の下期偏重により減益。

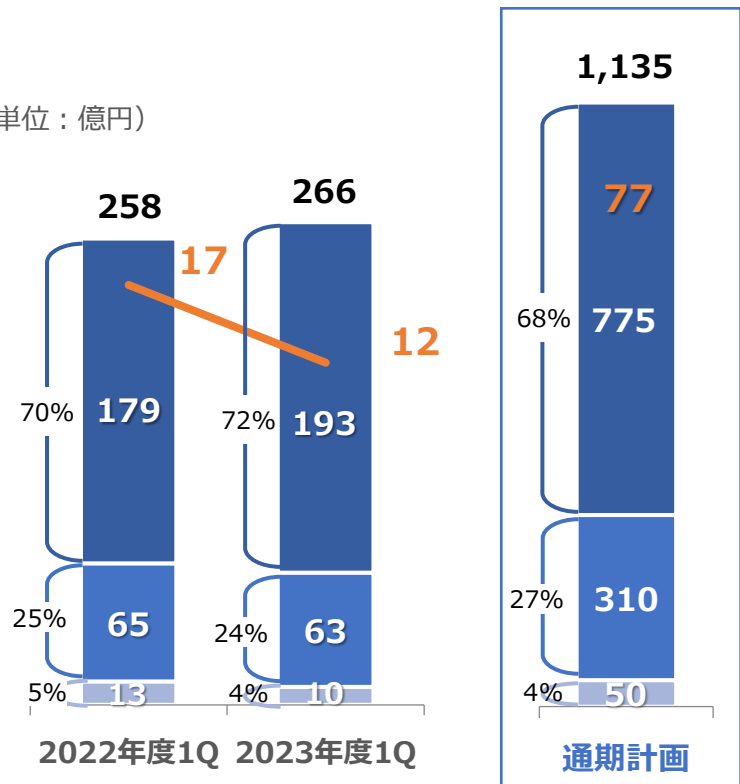
【今後の取り組み】

下期の需要回復に向けて人員ならびに在庫を確保。

2023年度 第1四半期 セグメント業績 エネルギー・インフラ事業

■ 建設関連 ■ 電力インフラ
■ 免震・その他 ■ 営業利益

(単位：億円)



営業利益率	6.5%	4.5%	6.8%
-------	------	------	------

1 Q前年同四半期比

電力工事の下期偏重を堅調な建設関連が補う。各種収益改善施策を実施。前年同四半期比増収（3.2%増）・減益（29.4%減）。

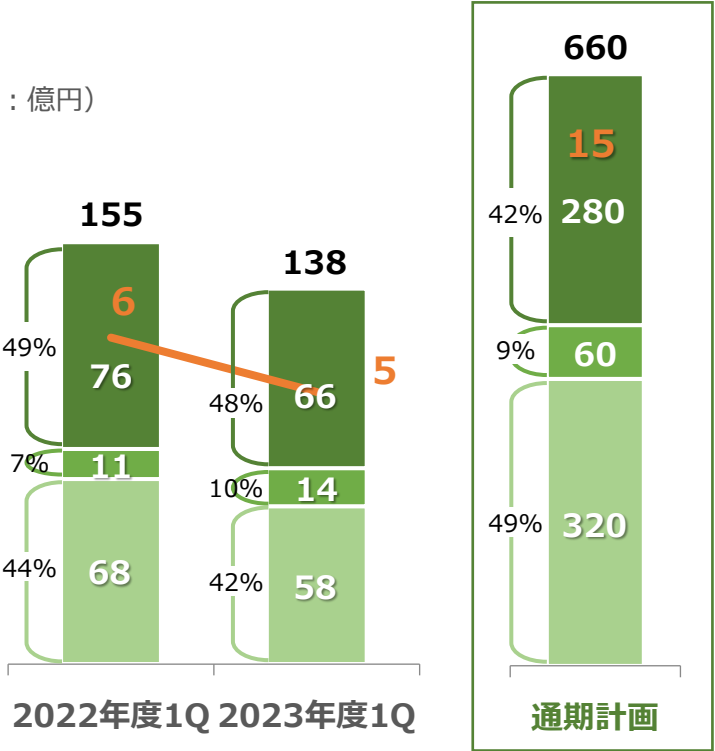
事業環境変化による影響

銅価格変動影響	売上高0.6億円減。
原材料・エネルギー・物流費高騰	高騰は続くも、価格転嫁ならびに原価低減を進め、収益を確保。物流は2024年度問題に向けて対応を準備。
需要の変化	国内の建設関連、電力インフラともに需要は堅調も当期は電力工事が下期に偏重。

2023年度 第1四半期 セグメント業績 電装・コンポーネンツ事業

■ 高機能製品無酸素銅 ■ その他高機能製品
■ 一般汎用製品 ■ 営業利益

(単位：億円)



営業利益率	4.0%	3.3%	2.3%
-------	------	------	------

1 Q前年同四半期比

xEV向け高機能製品は需要回復に向けた調整局面が続くも、重電向け汎用巻線は堅調に推移。前年同四半期比減収(10.7%減)・減益(26.7%減)。

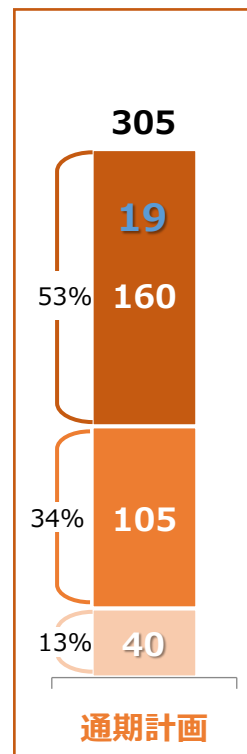
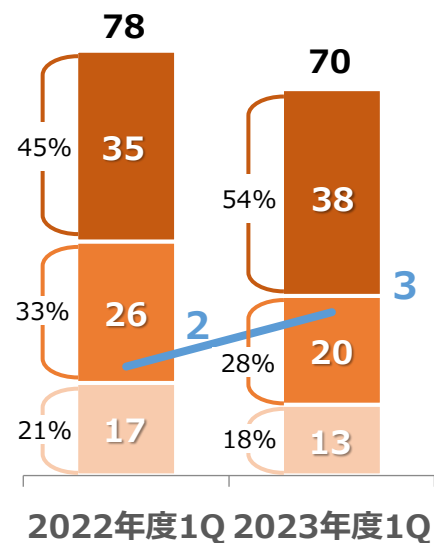
事業環境変化による影響

銅価格変動影響	売上高0.8億円減。
原材料・エネルギー・物流費高騰	高騰は続くも、価格転嫁ならびに原価低減を進め、収益を確保。物流は2024年度問題に向けて対応を準備。
需要の変化	xEV向け高機能製品は、1Qは調整局面も、2 Q以降需要回復の見込み。

2023年度 第1四半期 セグメント業績 通信・産業用デバイス事業

通信ケーブル ワイヤハーネス
精密デバイス 営業利益

(単位：億円)



営業利益率	2.2%	4.2%	6.2%
-------	------	------	------

1 Q前年同四半期比

産業用デバイスは一部コロナ特需の剥落による影響を受けるも、通信ケーブルの売上増、国内生産拠点の再編と適正価格販売の効果でカバー。前年同四半期比減収（10.2%減）・増益（67.2%増）。

事業環境変化による影響

銅価格変動影響	売上高0.2億円増。
原材料・エネルギー・物流費高騰	高騰は続くも、価格転嫁ならびに原価低減を進め、収益を確保。物流は2024年度問題に向けて対応を準備。
需要の変化	通信ケーブルは建設関連向け需要堅調。 家電および個人向けプリンターは一部コロナ特需が剥落。

2023年度 第1四半期連結業績 B/S（前期末比較）

（単位：億円）	2022年度末	2023年度1Q	増減
資産合計	1,567	1,547	▲20
売上債権	527	484	▲42
棚卸資産	282	302	21
固定資産	646	648	2
負債合計	883	861	▲21
仕入債務	249	261	12
有利子負債	412	386	▲25
純資産合計	684	685	2
自己資本	675	677	2
自己資本比率(%)	43.1	43.8	0.7
DEレシオ(%)	61	57	▲4

【棚卸資産】

2 Q以降の需要拡大を見越した在庫確保のため棚卸資産が増加。

【固定資産】

投資有価証券は、政策保有ポリシーに則り、売却を進めるも、株価高騰により増加。

【有利子負債】

運転資金の減少により有利子負債は減少。

【自己資本比率】

総資産が減少したため、前期末対比0.7ポイント増。

【DEレシオ】

有利子負債が減少し、自己資本も増加したため、前期末対比4ポイント減。

＜現状の課題認識と今後の対応策＞

各種施策により、BSは改善傾向も、原材料価格高騰および2 Q以降の需要拡大を見越した在庫確保のため棚卸資産が増加。引き続き、適正な水準での在庫の確保と、債権回収期間の短縮を進めることで、改善を進める。

2. 2023年度通期業績計画

2023年度 事業環境認識

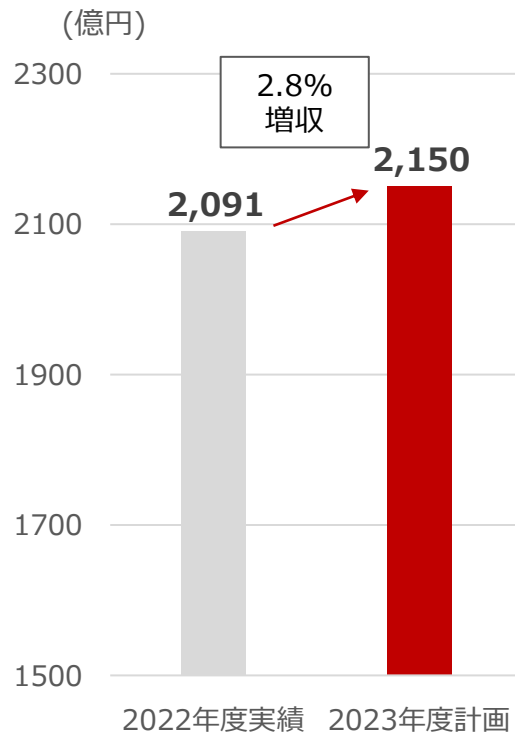
上期進捗は例年に比べ緩やかな見込み。下期は電力、通信の旺盛な需要およびxEV向け製品の回復と新規事業の本格化により、通期最高益を見込む。

		上期	下期
計画	営業利益	35億円 (1Q実績16億円)	72億円
	配当	35円	40円
事業環境認識	建設	例年並み	例年並み
	電力	電力工事の下期偏重	再エネ系統整備等、需要旺盛な電力案件の集中 SICONEX®増産による拡販
	自動車	xEV向け高機能製品は、1Qは調整局面も、2Q以降需要回復の見込み	xEV向け高機能製品の需要回復
	産業用デバイス	産業用デバイス事業のコロナ特需の剥落	産業用デバイス事業の需要回復
	通信	高グレードLANの需要拡大、車載向けFLANTEC®出荷開始	e-Ribbon®の海外拡販、車載向けFLANTEC®の拡販
	新規事業(ICT)	例年並み	ICTの本格化

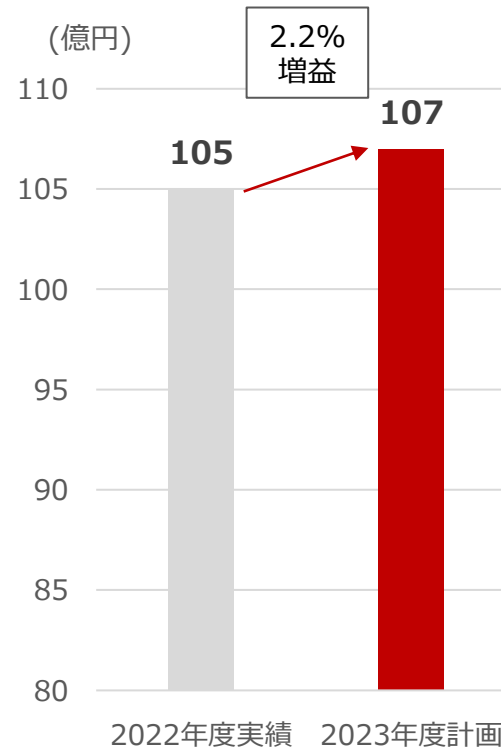
2023年度 通期業績計画

下期の需要取り込みと、各種施策により増収・増益を計画。株主還元は中間配当を実施し、増配予定。

売上高



営業利益



経常利益

106億円 (前年度対比2.0%増)

親会社株主に帰属する 当期純利益

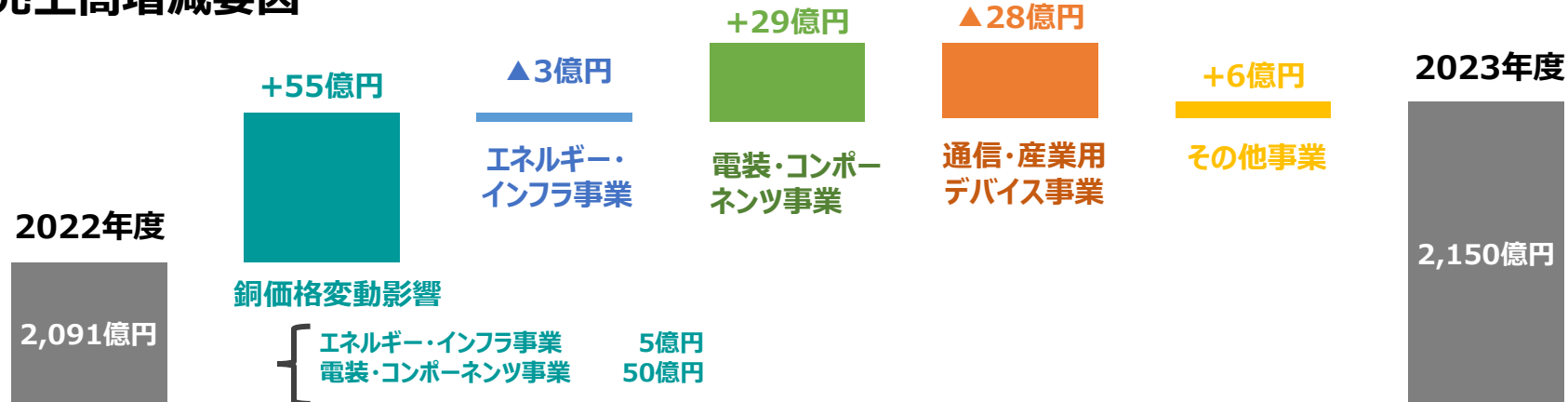
70億円 (前年度対比25.6%減)

配当/配当性向

75円/32% (前年度対比15円の増配)
中間:35円 期末:40円 合計 75円

2023年度 通期 増減要因

売上高増減要因

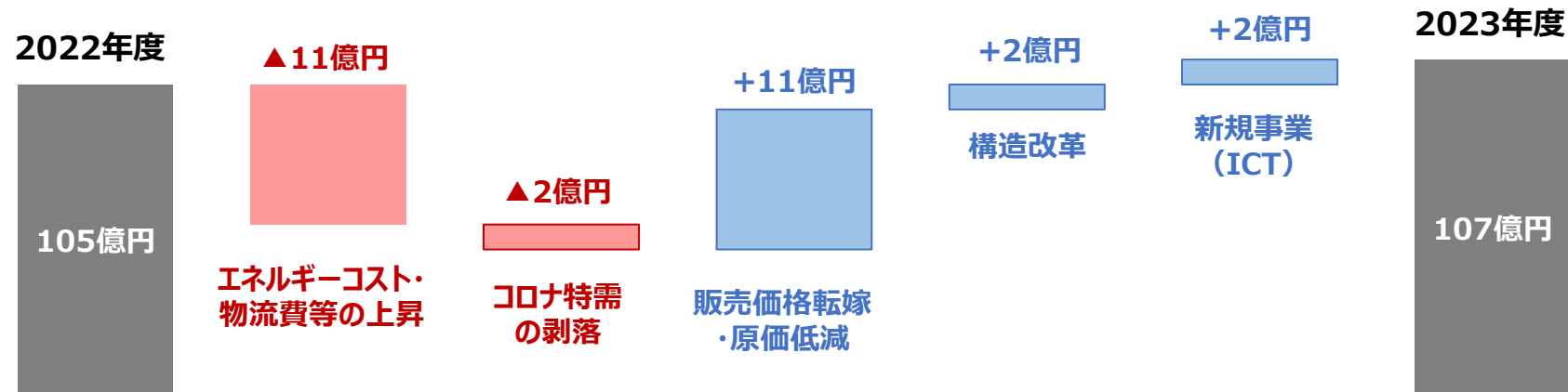


【増減要因】

1. 売上高

主に銅価格上昇によるコストアップを適時に販売価格にスライドし**増収**見込み。

営業利益増減要因



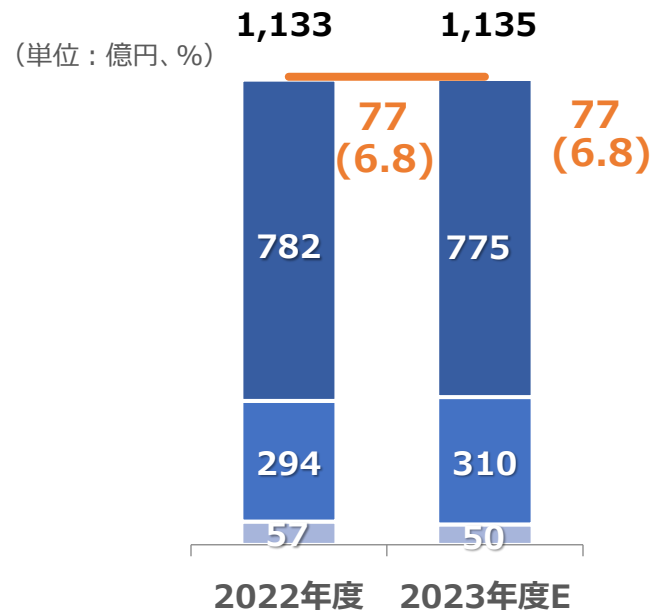
2. 営業利益

エネルギーコスト・物流費の高騰に対し販売価格の見直しや原価低減によりカバー。**構造改革効果 2 億円**に加え、**新規事業 (ICT) の本格化**により**増益**見込み。

2023年度 セグメント別業績計画

エネルギー・インフラ事業

■ 建設関連 ■ 電力インフラ
■ 免震・その他 ■ 営業利益 () 営業利益率

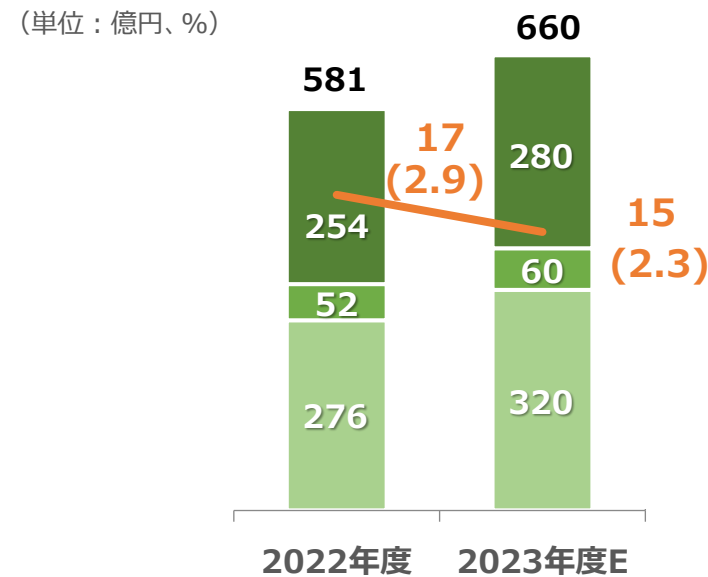


銅価影響：売上高 5 億円増

- + 要因 ● 建設関連の製販事業統合による収益改善
● SICONEX®の増産投資による売上貢献
- 要因 ● 建設関連特需の減少

電装・コンポーネンツ事業

■ 高機能製品無酸素銅 ■ その他高機能製品
■ 一般汎用製品 ■ 営業利益 () 営業利益率

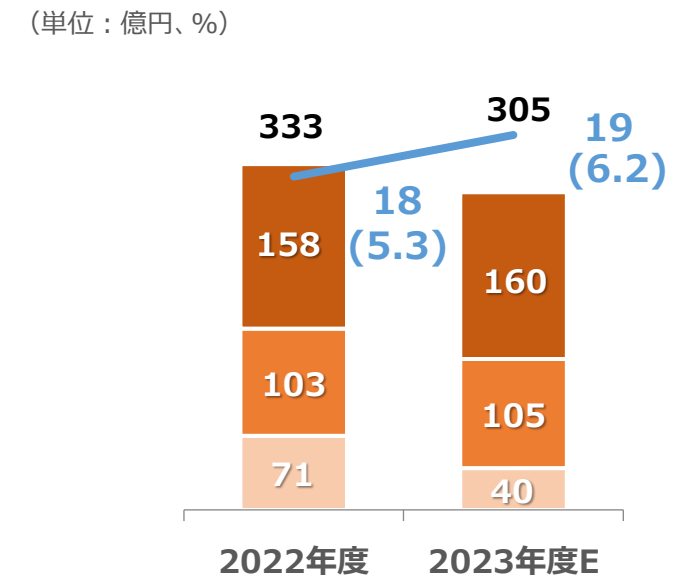


銅価影響：売上高50億円増

- + 要因 ● xEV向け高機能製品の下期回復
● 重電向け需要堅調
- 要因 ● xEV向け高機能製品の1Q調整局面

通信・産業用デバイス事業

■ 通信ケーブル ■ ワイヤハーネス
■ 精密デバイス ■ 営業利益 () 営業利益率

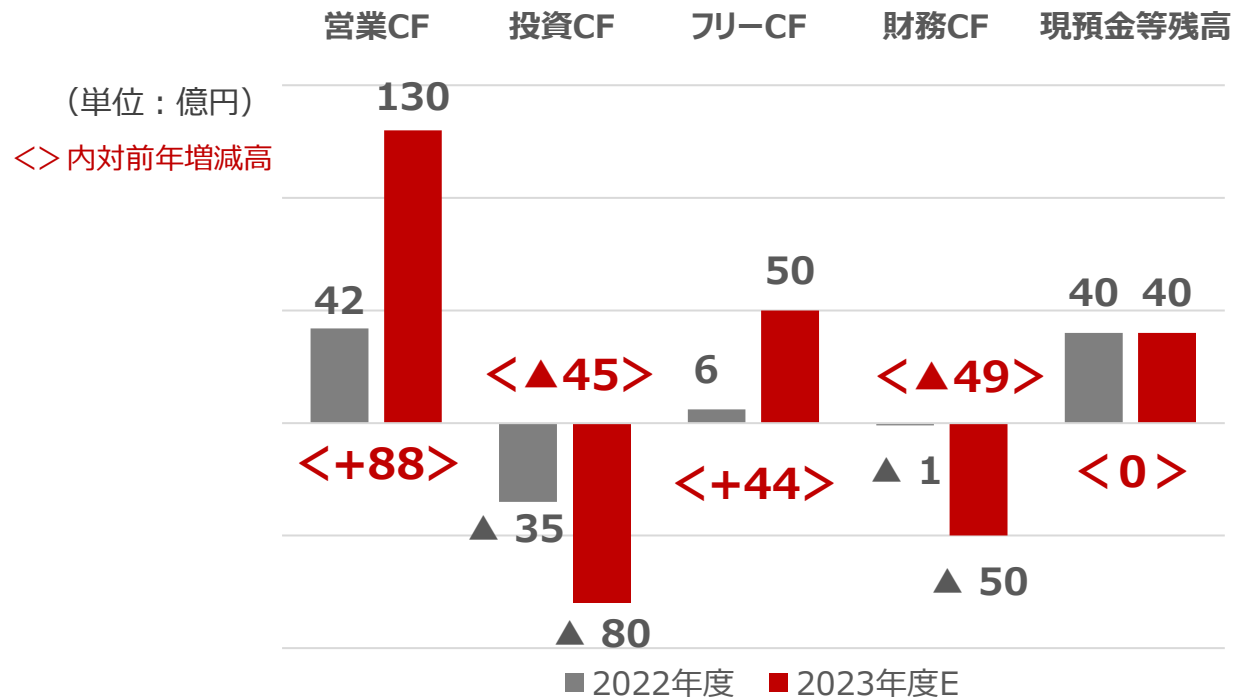


銅価影響：-

- + 要因 ● 通信ケーブル生産拠点統合効果の最大化
● 中国ロックダウンの解消
- 要因 ● 産業用デバイスのコロナ特需の剥落

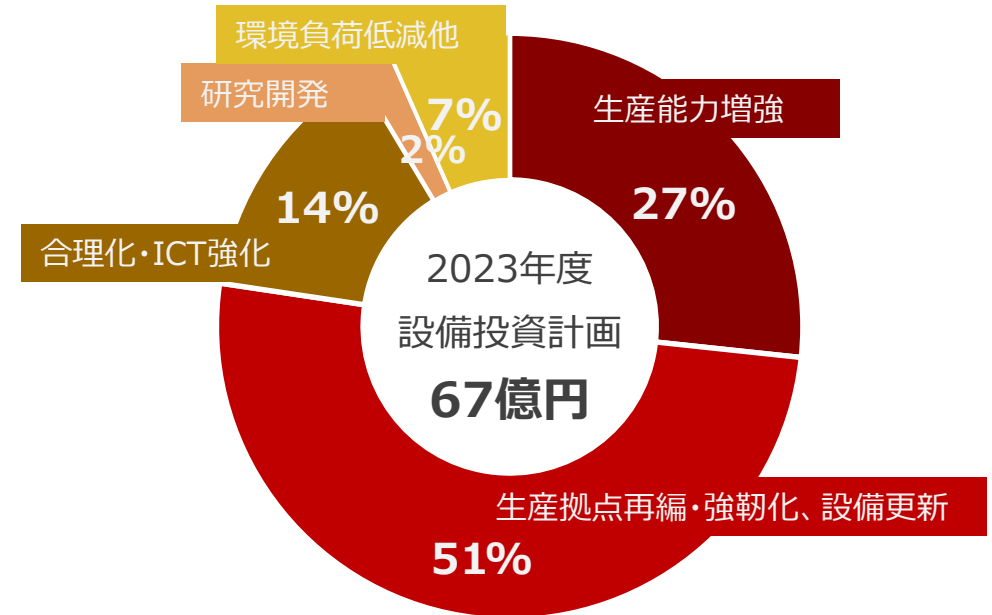
2023年度連結業績CF予想と設備投資計画

< 連結キャッシュフロー >



2023年度の営業CFは運転資金の圧縮により増大
投資CFは、設備投資の増加により支出増加

< 設備投資計画 >



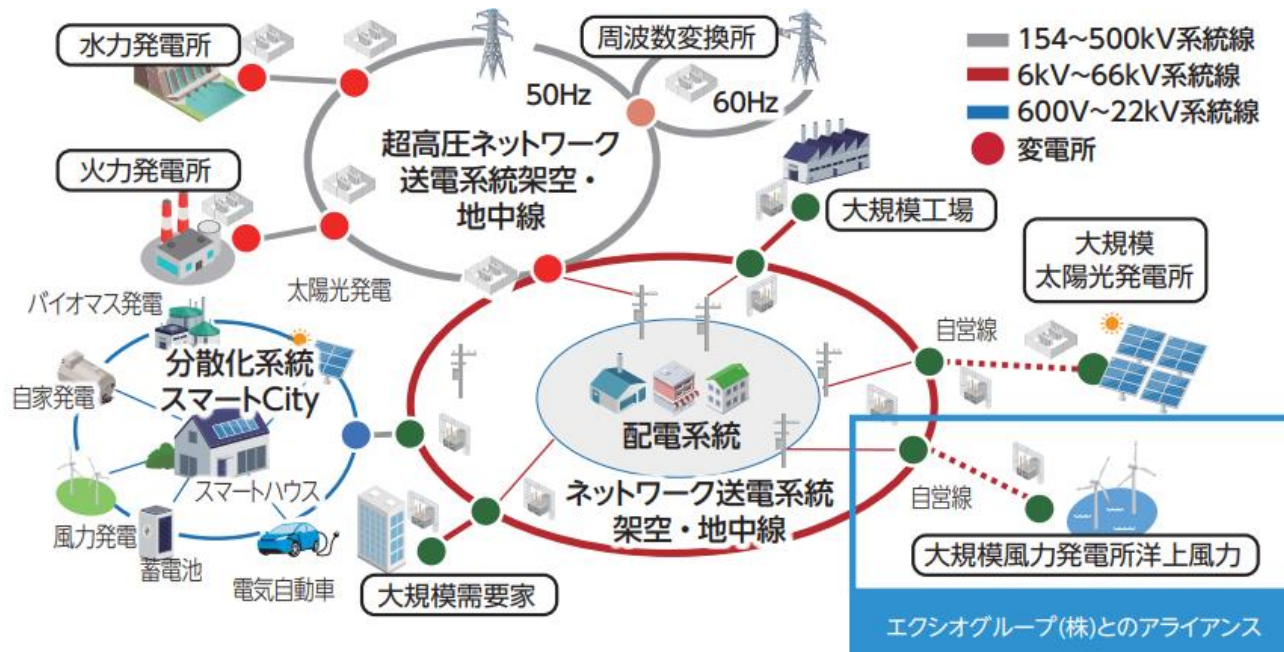
セグメント別内訳

エネルギー・インフラ事業	25億円
電装・コンポーネンツ事業	18億円
通信・産業用デバイス事業	10億円
その他	14億円

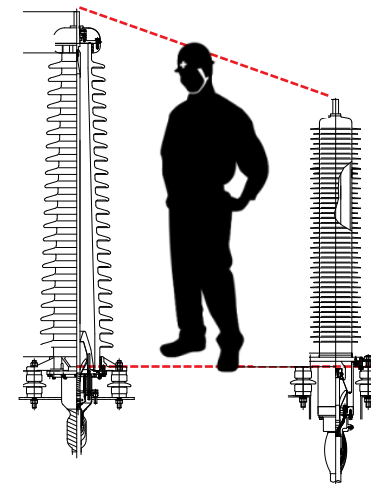
3. Appendix

エネルギー・インフラ事業 戦略製品と事業環境

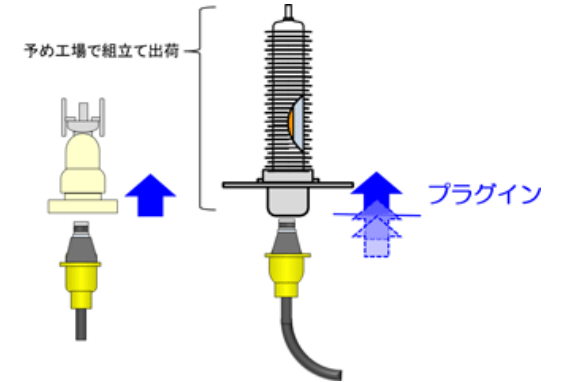
発電所から変電所を経由し、工場、ビル、家庭までをつなぐのに欠かせない電力接続部品SICONEX®（サイコネックス）。
軽量コンパクト、施工時間短縮、簡易ジョイント設計といった製品優位性を活かし社会基盤を支えています。



軽量コンパクト



簡易ジョイント設計



施工時間短縮

磁器がい管	本体据付・ケーブル処理	組み立て	その他
SICONEX®	本体据付・ケーブル処理	組み立て	その他

施工を30%短縮

追い風

- 現在の市場・・・電力網の老朽化更新需要
- 今後の市場・・・再エネ送電網整備

戦略

- 【製品】・・・増産投資、製品優位性を生かしたシェア拡大
- 【人材】・・・施工人財開発センターによる教育、協業社とのアライアンス拡大

電装・コンポーネンツ事業 戦略製品と事業環境

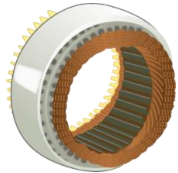
脱炭素社会を背景に、国内唯一の製法DIPフォーミング方式で製造し、酸素含有量が低く、高導電率、加工性に優れた**高機能無酸素銅MiDIP®**を中核に、**xEV関連事業の業績を拡大**しています。高機能製品は、国内のみならず海外に視野を広げて製品競争力を高めています。

xEVにおける高機能製品の用途と特長

無酸素銅(MiDIP®)

高機能巻線(平角巻線)

銅合金線(ヒータ線)



駆動モーター



モーター、インバーター、
変圧器 他



ハンドルヒータ



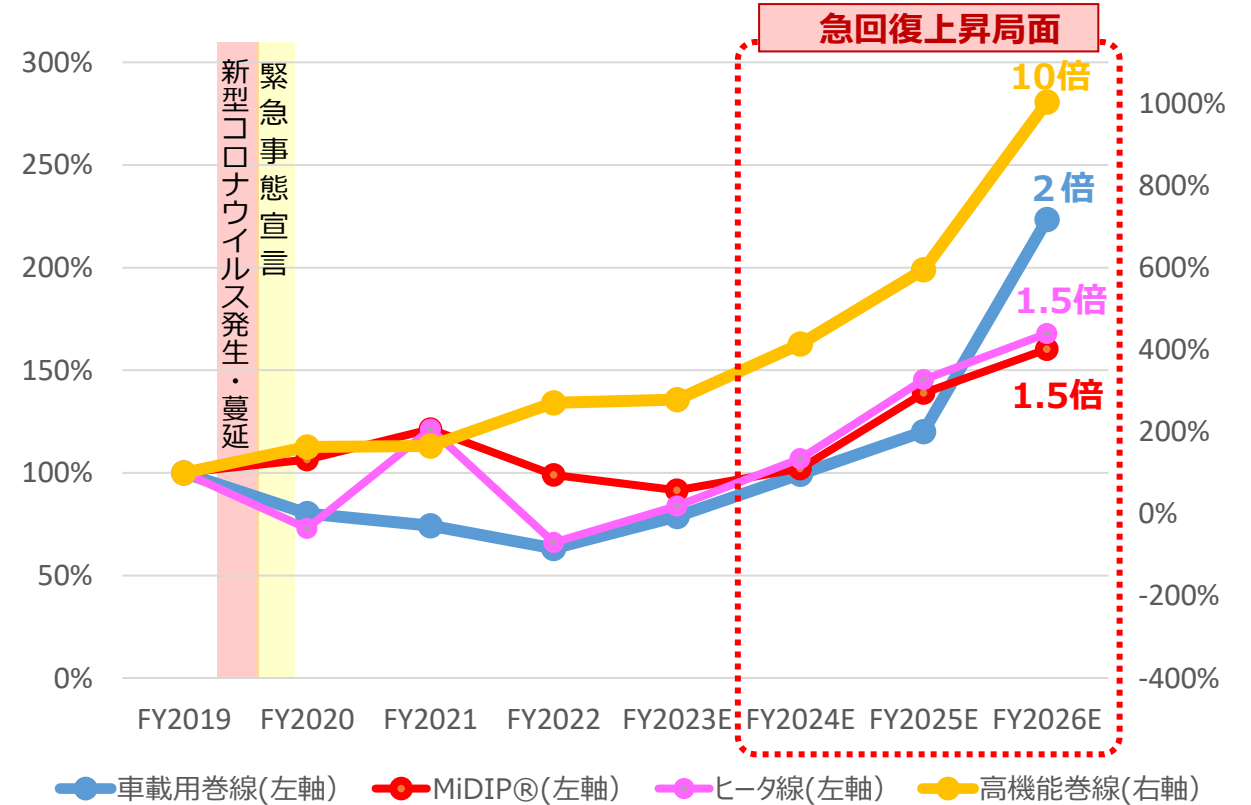
シートヒータ

	MiDIP®	無酸素銅	タブピッチ銅
酸素含有量	◎	○	△
導電率	◎	○	○
加工性 (曲げ、細線)	◎	○	△



高機能製品カテゴリー別出荷量推移

(コロナ前を100として試算)



通信・産業用デバイス事業 戦略製品と事業環境

家電から、今後拡大が見込まれる**産業機器**、**xEV車載向けワイヤハーネス**へと事業を拡大し、自動化による高効率化・省人化を実現した生産方式を生かして**中国・ベトナム**に3拠点を展開しています。



これまでの構造改革

- ① 生産拠点の多元化
- ② 現地調達・地産地消の推進
(嘉興・東莞 2022年度現地調達率74%)

追い風となる事業環境

- ① 社会環境、生活水準の高度化に伴う高機能家電需要の高まり
- ② 中国経済圏の拡大とローカルメーカーの事業領域拡大
- ③ 上記環境変化に伴う、現地での生産体制、商流・顧客開拓の最適化



SWCC株式会社

<https://www.swcc.co.jp>

本説明資料に記載されている将来の業績予測値は、公表時点で入手可能な情報に基づいており、潜在的なリスクや不確定要素を含んでおります。

このため、実際の業績は、さまざまな要素により、記載された予測値と大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与えうる要素としては、経済情勢、需要動向、原材料価格・為替の変動などが含まれます。

なお、業績等に影響を与えうる要素は、これらに限定されるものではありません。